

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600192		
法人名	社会福祉法人 愛生会		
事業所名	グループホーム ナゴミ		
所在地	千葉県八千代市緑が丘2-17-1		
自己評価作成日	令和元年6月17日	評価結果市町村受理日	令和元年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	令和1年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年ご利用者一人ひとりに、行きたいことや食べたいものなどのリクエストを取り、希望を叶えるレクを実施している。食事などは、近所の喫茶店やカラオケなども行きました。昨年は、大相撲の巡業で市内で見ることができました。地域交流として、近隣の保育園へ行き、園児との交流を行いました。また、アニマルセラピーも行うことができ、昔動物を飼っていた方が多く、とても好評でした。外出は、季節ごとにお花見や京成バラ園などにも外出しております。毎月、外出や食レクなどを行い、ご利用者の方と笑顔で一日一日を過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 東葉高速線八千代緑が丘駅から徒歩13分の、閑静な住宅街に立地した3階建ての2, 3階を使用している施設で、商業施設も近く、訪問や買い物に便利です。1階の系列小規模多機能型施設や市内近くの特養施設(法人本部)等と連携し、行事開催、避難訓練・備蓄、研修、昼食の準備、利用者の重度化に伴う受入れ等効率的に運営されています。
 2. 毎年利用者の聞き取り調査を行い、食べたい物、行きたい所、相撲見物、アニマルセラピー等、利用者の意向に沿った配慮を行い、家族アンケートでも好評です。職員は定着しており、理解のある家族にも恵まれ、年2回の家族会(出席率89%~94%)で忌憚なく一緒に食事しながら意見交換をしています。利用者は平均年齢89.9歳(90歳超6名)ですが、年齢の割に元気で、明るく過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より、事業所の理念を作り一日一回唱和するようにしている。	法人運営理念・行動指針・事業所理念を各階に掲示し、職員は毎朝ミーティング時に唱和し、日頃のサービスで実践に努めています。地域密着については、理念・行動指針の全体の中に織り込まれており、ホームの理念として適切です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流としては、近くのお店に買物に行くことのみとなっているので、地域の方と活動をすることが現状出来ない。	自治会に加入し行事に参加する他、併設の小規模多機能型施設と一緒にボランティアの受け入れ(習字・音楽療法等)や、保育園との交流を行っています。今後、市の企画「RUN伴2019」(認知症の啓蒙活動)に参加予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を、地域包括の方と開き情報を発信してきた。また、施設の外に掲示板を作り、活動内容などを掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の意見を基に、ご利用者方が、お菓子や煮物などをお客様に提供することを行った。	会議は、2カ月毎に地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、介護相談員、家族、職員で開催しています。議題に、利用者状況、活動報告、ヒヤリハット事故報告、外部評価報告、今後の予定等を取り上げ、意見交換し、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的に取り組むことなどは、行っていないが情報の確認などで、連絡をしている。	地域包括支援センターに必ず運営推進会議に出席頂き意見・情報を貰う等、良好な関係を築いています。又2ヶ月ごと開催のグループホーム連絡会で市担当から情報を貰ったり、11月からの市の企画「RUN伴2019」に積極的に参加を予定する等、行政機関との協力関係構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は、玄関の施錠は行っていないが、夜間は防犯上行っている。また、身体拘束については、勉強会などで互いのケアについて話し合っている。	昨年度から身体拘束廃止委員会を年2回開催する他、年4、5回内部研修を実施しています。昼間は玄関は施錠せず、各階のホーム出入口のみロックされています。然し利用者に閉塞感を抱かせない様適時声かけ、外に連れ出す等配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待委員を作り、お互いに虐待が見過ごされないように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の理解などは、話す機会などは無く、一部の職員が解っているので、今後は、話し合いの機会を作るようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解除については、特に長期入院をするようなことになったときには、家族と病院の状況などを確認しながら行っている。また、契約時に一か月以上の入院になる場合などの説明などを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回程度、家族会を実施して意見の聴取を行っている。	毎年利用者から行きたい所、食べたい物を聞き取る他、家族からは訪問時、家族会(年2回開催し、参加率9割前後)、運営推進会議時に意見・要望を聞き、運営に反映させています。今回実施した家族アンケートでも殆どの家族から「よく話を聞いてくれ、柔軟に対応してくれる。」と好評です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月GH会議などを行い、職員の意見などを聴取している。	センター長は、職員が声を掛けやすい雰囲気を作り、毎月の職員会議時で意見・要望を聞き、運営に反映しています。職員から、「良い職場環境でなんでも話しやすい、仕事がしやすい。」との声も聞かれました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価を行い、面談を行い意見聴取などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などのお知らせを出しているが、職員の配置基準などにより、研修などに一人ひとり参加が出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で、GH部会を2か月1度行い、互いに情報の交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子などを常に確認しながら、傾聴を行い要望に応えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々様子を伺うために、事前調査を行いご自宅で困っていることなどを伺う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入居できない場合等、他のサービスや事業所などを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方と日々の必要な日用品の買物に行ったり、食事準備や洗濯物を畳んでもらい、自宅で過ごしていた時と変わらない生活を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には、毎月お便りをだしながら、日々の生活などを伝え情報の共有をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所付き合いを大切にされていた方は、今でも一緒に外出などを行っている。	家族や友人と食事に行ったり自宅に泊まったりしています。また相撲観戦に行ったり、歌の好きな人が2～3人でカラオケに行ったりと、馴染みの人や場所との関係継続を支援している様子がわかります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が、関わりを持てるようにイベント等を多く作り、関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のフォローなどは、現状行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な方については、ご家族や職員同士のミーティングなどにより、一人ひとりの希望などを取っている。	意向の把握が難しい人については、家族から生活歴や趣味嗜好などを聞き取るとともに、カンファレンスを行って利用者の思いを探り、支援につなげられるよう話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、事前調査に行き、個人の情報を確認して、職員へ周知していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で情報の共有を行いながら、日々の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが、中心となってご家族や他の職員から情報を共有して、介護計画に反映している。	入居前に事前調査を行い本人の心身の状況を把握します。本人・家族の意向を含めたアセスメントをもとに介護計画を立てています。短期目標に合わせてモニタリングを行い、変化時・更新時には計画の見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌以外に、個人記録を取って介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化が、出来ていないので、職員一人ひとりが、意識だてる様に研修などに参加出来る様にしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流などを行い、ご利用者一人ひとりが、地域の方との交流が出来る様にイベントなどを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診を行う前に、ご家族へ電話連絡を行ってから受診をする。また、受診後もご家族の立ち合いが無い場合は、連絡を行う。	利用者に対しては、月に2回の訪問診療と週1回の訪問看護により健康を管理しています。緊急時には訪問医の指示を仰ぎ専門医の受診や入院など適切な医療を受けられる体制になっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携は、どの職員でも取れる様に指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りは、行っていないが、退院時や長期入院などの時は、入院先への連絡は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域の方との支援などは、受けていないが重度化した際には、法人内の施設の相談員と連絡は取りあっている。	重度化した場合や終末期のホームの方針を入居時に本人・家族に説明し同意を得ています。併設の特養と連携をとりながら最善の選択ができるよう納得いくまで話し合いを重ねています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練などを行っていないが、各利用者の情報を共有しながら、体調の変化などの時はどのようにするか訪問看護との連携を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連携を取り、消防訓練も地域の方と行う。また、地域の防災訓練にも参加した。	年2回の消防訓練(夜間想定を含む消防署立ち合い訓練と自主訓練)を行っており、地域にも参加を呼び掛けています。避難階段は防火扉付きで、その他防火装置・機器も完備しており、防災用品の他に5日分の飲・食料品を備蓄しています。	最近各種災害が増えていることを考え、関係者で話し合い、①毎年災害訓練の実施、②防災頭巾又はヘルメットの準備、③非常時持ち出し品(処方箋又はお薬手帳等)の明確化が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気ない時に、言葉かけを注意することがあるので、職員が自覚できるようにしていきたい。	個人情報各フロアごとに鍵付きのキャビネットに保管しています。また個々の生活のリズムを大切に、意向を尊重しつつ過不足のない支援を心掛けています。排泄や入浴時の利用者の羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人ひとりに、行きたい所や行いたい事などの希望を取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者に合わせて、活動などを行えるようにしているが、1日1日をどのように過ごして頂く為に、希望を取れるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみなどには、注意するようにしている。また、居室なども清潔に保てるように、リネン類や居室清掃などは、割り振りをおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント食などを作る時には、ご利用者の方と料理を作っている。また、食器などの片づけなどは、ご利用者の方で行っている。	利用者は食器やお盆を拭いたり、盛り付け、枝豆の下処理など、職員とともにできる事を行っています。また、年に数回流しそうめんや焼き肉などの「食レク」の日を設ける他、個別にレストランに行って好きなものを食べることが出来るようにするなど、食事を楽しむ支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの一日の記録を作成して、食事量や水分量などを把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、歯と口腔内の様子を確認している。訪問歯科の先生にも、毎月口腔ケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調が悪い時以外は、トイレにて排泄介助を促している。一人ひとりトイレの確認表などを使って把握している。	排泄チェック表をもとに声かけやトイレへの誘導をしています。トイレで排泄ができるよう利用者の様子を観察しながら誘導のタイミングを図っています。オムツだった人がリハビリパンツになるなど改善例もあり、排泄の自立に努めている事がわかります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に最終排便などを確認して、オリゴ糖などなるべく下剤などを入れないように調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回入れるように、入浴リストを作り入って頂いているが、職員の都合などにより入って頂いている事有。	週に2～3回のペースで入浴しています。曜日や時間は状況に応じて柔軟に対応しています。簡易リフト付きでバスタブの側面が上下する機能もあり、浴槽の跨ぎが困難な人などがゆっくり湯船につかれるよう配慮されています。また風呂上りに冷たいビールを飲むのを楽しみにしている利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとり、安眠できるように支援している様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、職員同士お互いに声を掛けあい、誤薬が無いように努めている。また、体調の様子などを担当医と薬剤師と連携を取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴などを、把握して一日を満足して頂けるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に一度、ご利用者一人ひとりに、「行きたいところ」「やりたいこと」などを聞いて叶えられるようにしている。一部の方は、地域の方との連携を持っている為、地域での行事などに参加している。	花見やいちご狩りなどの年間行事で外出するほか、近くの保育園に行き、園児と交流したり、個別にレストランやカラオケに行くなど、一人ひとりの意向を尊重した外出を支援しています。	利用者が楽しめる外出を企画して喜ばれています。しかし職員のシフトや車いすの利用者への対応などから散歩は条件が整った時しか行けません。個々の利用者にとっての「外出」のニーズを探り、介護計画に位置付ける事が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をお預かりしているご利用者については、買い物時にお金を渡して、物を購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された方には、電話を部屋に置いて自由に掛けてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁などには、活動写真や季節ごとの壁面工作などを飾っている。	リビング兼食堂は、明るく、清潔で広く(畳空間あり)、温度・湿度も適切に調整され、利用者が快適に過ごせる様に配慮されています。壁に季節の飾り、行事写真、習字の力作が貼られ、季節感・生活感を感じます。利用者は平均89.9歳(90歳超6名)ですが、比較的元気に明るく、過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやリクライニングシートなどを、共用スペースに置き、居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のお部屋は、家で使っていた衣類や家具などを持って来てもらい過ごして頂いている。	居室は、エアコン、カーテン、ベッド・マット、洗面台が備え付けで、清潔で適度の広さもあります。利用者は馴染みの物を持ち込み、自分の家に居る様に安心して過ごしています。中には前の利用者が置いていった中型タンスをそのまま使用している部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立心を持って、生活が送れるように職員一同心掛けている。		